磐城調査新報

發行日　隨時
編輯印刷發行人　馬目雅治
福島縣石城郡平町
紺屋町二十九番地
發行所　磐城調査新報社
電話三二六番
廣告料　五號十四字詰一行卅錢
場所指定拾錢增
新聞定價
一部十錢　一ケ月廿錢

平・磐城兩行
合併決裂を批判す

財界安定は郡下全銀行の合併にあり
平・磐兩重役は猛省一番再交渉せよ

石城全郡下は勿論、双葉並に隣縣多賀郡に至る一圓に多大の力を占め、永年財界に覇を唱へつゝあつた磐城銀行が、五月二十二日突如休業をなしてより茲に五十日、全郡下に渉る經濟界はこの霹靂的衝動に周章狼狽、至る處悲劇慘話が展開されて、未曾有の恐怖時代を現出したるは實に遺憾千萬な事である。抑も磐銀の休業は余りに疾風迅雷的なると意外に時期が早かつたとの感はあるが、吾人は其營業方針の不健實なる点より視て早晩休業ならずとも、何等かの形態に依つて爆發するものと思慮し、數年前より既に同志山田、鈴木、金古氏等と共に同行に警告以つて、反省を促したる次第であつたが、今斯の現狀を見るに當つて悲憤、遺憾の情禁じ得ぬものである。

然しながら今や吾人は徒らに私情或は理性一点張を以てこの經濟受難期に臨むが如き、輕擧盲動を避けねばならぬ事を知つてゐる、消えなんとする燈火に水を灌ぎ、倒れんとする者に一擊を與へて快を叫ぶが如き態度を絶排せねばならぬ。故に力甚だ小なりと云へども、磐銀それ自体は兎も角、脊後に有る三百萬の預金者の爲め及び、これに依つて沈み切つたる財界の安定に全力を盡して奉仕するが、石城郡民としての責務であらねばならぬと斷言するものである。

然らばこの難局に處して最も簡明にして、最も有力なる財界安定策は何か、吾人は言下に郡下全銀行の一大合同を提唱するものである。即ちこれに依つて先づ、沈滯せる磐銀預金を生かし一面磐銀休業以來激增せる地方預金の流出を防ぎ、以つて郡內金融界を圓滑ならしめんとするものである。

今や三百萬圓の磐銀預金が枯死に瀕せんとするは勿論、平町に於ける七十七、百七、農工の三支店銀行の預金は三百萬圓に垂垂とし、外郵便預金が休銀以來約七十萬圓の増加を示すと噂されてゐるが、これ明かに地方銀行に對する不安感念より發するものと觀るが公平なる可く、實に地方財界に取り由々敷き大事と謂はねばなるまい。

近年簡易保險初め種々なる保險及び信託業の發達に依り、地方有金の多額が中央に集中されつゝあるを、地方財界のため識者は密かに憂ひつゝある時に於て、此の点吾人の特に意を用ふべきものであつて、地方的一大銀行の成立は休銀の有無に係らず、この趣旨よりするも最大急務であらねばならぬ。即ち郡內全銀行の一大合同は、之れに依つて銀行自らを堅固ならしむるのみならず、取引關係者に充分の安心を與ふるもので三地方經濟運用の上よりするも、最も策を得たるものと謂ふ可きであらう。

意外とする
自行本位の兩提案

郡內全銀行の合同を實現せんとするには先づ平銀、磐銀兩行の合併を先決問題とするが此の際至當であらう、即ち兩行は共に郡內の二大銀行なるのみならず兩行の組織を見るに、各々重役を交換しつゝある点より見て、今回の磐銀休業の一半の責任は現平銀重役たる一部の人々も當然負はねばならぬもので、この合併は十分可能性を有するものとして吾人は兩行の數度の重役會議の內容、或は交渉の推移に注視し、一日も早く合併の具体化を念じつゝあつたのである。

然るに意外、本月三日遂にこの交渉が決裂を見たるの報に接し吾人は甚だこれを悲しむと共に財界の前途尙暗澹たるを想ふのみである、次に兩行が主張する交渉案を對照すれば

▲平銀行案

一、磐銀の日銀借入を除外して磐銀資產查定を日銀に依頼すること。

一、右查定前內容を兩行に示す事、日銀の查定には兩行共異議なきこと。

一、平銀は磐銀の資產丈けの預金支拂を引受くる事。

一、預金の切捨、置据、年賦拂及資產讓渡(平銀へ)に關しては磐銀は各債權者の同意を得ること。

一、兩行共株主總會の決議により其効力を生ずること。

（兩行の名に於て新聞記者に對し發表すること）

▲磐城銀行案

一、磐銀の特融法借入金は兩行協力して政府より補償を求むること。

二、磐銀資產の查定は日銀に一任しその查定に異議なきこと但し日銀が兩行の查定を求むる場合は之に應ずること。

三、平銀は磐銀の資產を引受け之れと同額の磐銀一般債務の支拂をなすこと。

四、前項により平銀に於て支拂ふべき一般債務の內一口金壹百圓以下の金額は全額一時拂とし一口金壹百圓以上の債務に對しては三分の一以上の金額の一時拂ひをなし殘余の債務の支拂時期其他の方法は磐銀に於て債權者の諒解を求め之を定むること。

但し支拂の算定は其金高により遞次率によるものとす。

五、右は兩行共株主總會の決議により其効力を生ずること

六、新聞記者に對する發表は兩行の名を以てすること。

右に依つて見れば、交渉決裂の焦点と見る可きは

一、磐銀の日銀借入は磐銀案にては、兩行協力で政府の保償を求めんとし、平銀はこれが除外を要求せる点。

二、磐銀の資產查定を日銀に依頼するに當り、查定以前に平銀が其內容を示せと云ふに對し磐銀は日銀查定に絶對服從說を採る点。

三、日銀が平銀の查定をも要求せる場合は之に應ぜよとの磐銀の主張に對し、平銀が之を拒否せる点。

問題は此の三点に存するものと見る可く、然らば吾人は合併交渉をなすに當つて、兩行の當事者間に既に交渉に臨む豫備感念に於て、甚だしき間隔があると斷ずるものである。

小我を捨て財界安定の
責任と使命を想へ

磐銀當事者は、自行既に休業を續け、滿身瘡痍の身にありながら平銀に對し余りに對等視し、普通時に於ける合併の如き態度に有るは、前項第二、第三に明らかに觀取される。磐銀の內容を查定以前に平銀が提示せよと云ふは日銀の查定に不信を置くもので平銀の態度に多少云々すべき点あるも。磐銀が內容提示を拒む事は不可解である。眞に預金者を顧慮するなら區々たる面目や体濟を繕ろはず。赤裸々に內容を示してはどうだらう、第三項の如きは對等者の主張で或は感情的に決裂の因を撥くるに過ぎなかつたかも知れん。

飜つて平銀の態度を見るに、仕方無く合併するので損のある事は一切御免と云ふが如き、極端なる優越感を保持して、冷眼視する態度は怪しからぬと思うものである、何となれば磐銀との合併は眼前の自行に都合よき算盤をのみ考へては出來ぬ相談である、石城全經濟界のこの浮沈時に際し其運命を左右する重責が懸つて双肩に在るを考へたなら一磐銀の救濟に非ず、石城全財界の救濟なりと痛感して、堪へ得らるゝ犠牲を甘受する勇氣がなければなるまい、然るに第一項の日銀保償の拒否の如きはすでに難題とも云ふ可きであらう、而して第三項の平銀が日銀の要求があつても查定に應せぬと云ふは、たとへ磐銀の申出が不遜としても自ら內容充實を誇る同行は喜んでこれに應じ、其堅實振りを世人に知らしめたらどうだらう。

要するにこの決裂は、兩行重役が自行本位であつて地方財界の安定に對する誠意及び、奉仕觀念の欠乏を如實に物語るものである。見よ。白井一家の事業とも稱す可き小名の大敷網は豊漁で財布が重い。同行の重役平銀の頭取山崎氏は自家の合名會社を増資して、合法的に私財提供に備へたと云はれてゐる。

鳴呼吾人は仙臺の七十七銀行が昨年、倒れんとする宮城商銀を救濟的に合併して財界の紛亂を未然に防ぎ、然して今般同地東北實銀との大合併に際し、商銀合併に依る欠損に頭取、重役皆進んで減資及び私財(五十萬圓)提供をなすと云ふ紳士的態度を聞くにつけ、實に其差異の大なるに驚くのみである。

の兩行の重役諸氏よ!!氏等は小さき自已一身をあまりに凝視しすぎて、郡內一般の不安なる財界の動きが目に入らぬのではないか。過去に於ても石城財界を風靡し未來に向つても全郡の經濟界を指導啓發の重きに任ず可き氏等が、此の經濟的混亂時に際し、自已一身にのみ戀々たらず、少なくも大所高所より達觀して奮起すべきではないか。

感情を排し、面目にのみ拘泥せず行懸りを捨て、猛省一番胸襟を開いて再交渉せよと吾人は進言するものである。

（以下次號）

石城銀行組合 土曜日半休實施

七月十日から

七月二日付大藏省令第九號・銀行法施行細則中一部改正に依り銀行の營業時間は午前九時より午後三時三十分迄となり、土曜日に限り正午十二時迄短縮し得る事となつたので、石城銀行組合にては、六日午前十一時から平銀行內に組合會を開催、來る十日より土曜半休を實施する事に申し合せた上、幹事銀行として平銀行を擧げ散會したが、右改正に關し銀行家としての意嚮をたゝけば、某頭取は「先年も午後四時迄の營業時間を三時限りと改めた事がありました當時は多少異論もありましたが、實施して見ると一寸の間は取引者も從業員も永い習慣にわづらはされて具合の惡かつた点もありましたが、相互時と共に、便不便を感ぜぬ様に成りました、今度のも土曜日は正午迄となりましたが、あとの五日は三十分づゝ營業時間が延長されましたから總括的に見て影響がなからうと思ひます、たゞ日曜日の休をひかへた土曜日であるから、取引者に於ても今迄のつもりで居て、月曜迄御利用の期を失する様な事があるかも知れませんから、茲しばらく習慣づく間御注意願ひたい次第です。云々」

野崎縣議夫人 快癒退院

野崎縣議夫人きむ子氏は去月下旬脊部に腫物を生じ、南町上田外科醫院にて手術を受け同所に入院中の處、其後經過良好にて八日午後退院の運びに至つたと云ふ。

小名水產工業 冷凍に全力を盡す

下半期頗る有望

小名濱町磐城水產工業株式會社は初夏より同地の大敷網が大漁を續けてゐるので、其販賣權を持つてゐる關係上非常に活氣を呈してゐるが、同社は其外に會社創立の最大目的たる鮮魚の冷凍をこの安價なる漁獲に依つて完全に發揮せんと、目下備付けの米國ヨーク會社製七噸半製氷機二臺（冷藏用として三十噸能力）を運轉して日夜冷凍をなしてゐるが、今期の目論見は

一、ブリ　三萬貫
一、鯛　五千貫
一、鯖　二千五百貫
一、鰹　五千貫
外たこ、秋刀魚等

であつて、鯛・鯖等はほゞ豫定通り冷凍を終り、目下鰹及ブリにかゝつてゐると云ふが、これを十一月末から市場に出す時は莫大な利益を見るであらう、即ちブリ三萬貫丈けでも專門家の言に依れば少くとも三萬五千圓の純利を得ると云はれてゐる。

第三校問題 修正圓滿解決

平町第三小學校建設問題は敷地爭の結果、候補地たる正內町側と南町裏側と互に讓らず紛糾の色濃厚となつたので、再三町會を延期して緩和策を講じつゝあつたが、七日午前平第一小學校に開會せる町會席上、吉田氏其他提出の修正案可決し、圓滿解決を見た、それに依れば、第三小學校敷地は正內町とし、十二學級の校舍を、昭和五年迄完成し、第四小學校は南町裏方部に昭和五年度より新築に着し、敷地五千四百坪を買收し置く事となつたのである。尙ほ第三小學校敷地決定と共に敷地地盛工事に對し同地附近各區より約五百人の人夫の寄附申し出あつたが町に於てはその採納の件を知事の認可後として保留になつた。

地下一千尺を觀る

入山五坑視察記

□

六月も押しせまつた某日、同業MFB三氏と偶然會した、そして氣まぐれから、地下一千尺に働く炭礦勞働者の奮闘振を視察しやうじやないかと話がきまつて、湯本の入山採炭の礦業所に押しかける、さて恐る〳〵坑內拜見の御願をしたもんだ。

□

吉田事務主任氏が笑ひながら一行を迎ひて「よく決心がつきましたナー」と早速快諾されたが、何となく薄氣味の惡い一語だ、直ちに借用の霜降りの作業服、草鞋に鳥打帽と云ふ姿に變る。首玉に手拭をむすび付けたあたり正に本職と云ふ格好だ。

□

採炭係長の大越さんが案內役だ、午前九時五十分斜坑人道から入坑する事となつた、電氣ケーブルの人車を一行の爲め臨時に入口に準備してくれる、恐る〳〵坑口から見下ろすと電燈が綺麗に地の底まで連續してゐる「サア」と一同が人車に浮腰を降ろすと車はスル〳〵と降下し初めた。

□

走る〳〵、一分間四百五十尺の速力でほの暗い斜坑を一直線に滑る。振り返つて見ると坑口から見える青空が次第に遠く小さくなる、冷い風が身邊をかすめて、夢見る樣に地の底に吸ひ込まれて行く、心細い。約六分で人車の終点に着く、暗黑に馴れた眼は携帶の淡い電燈の光でも容易に視界がハッキリする、こゝは海面下八百尺、直斜路五百間と說明される。

□

海面下八百尺と云へば、小供の時よく讀んだ探險小說の人外魔境なんかといふ奴を連想するが、さて今自分がその地に立つ見てると、村道位の立派さの坑道がチヤンとある、文明人の力は偉大だ。

□

これから徒步だ、第一にポンプ座を見る、四百馬力、十臺の電氣モーターが物すごいうなりを立て廻轉してゐて、每秒百立方の水を坑外に揚げてゐる、機械場に働く全裸体の人々の汗に安全燈の光がうつる、地の底に默々として蒸氣文明開拓の爲め働くこの人々の努力は貴いもんだ。

□

坑道を進む一哩半、海面下一千尺の採炭場（坑道の最終堀進地）に到着したのは十一時四十分だ、こゝらは地熱のため土用の日中位の溫度だ、一行は途中で上着をカナグリ捨てゝ上半身丸出しだ、坑外から鐵管で送る淸水が堪らなく美味い。

□

五十馬力のモーターに依つて動く空氣壓搾のフォルマンドリルがすさまじい響で八尺炭に喰ひ込んで行く、やがて爆藥が挿入されて莫大な炭塊が落下するのだ、炭車に積込む人、機械に係る人、運炭する人、雜役に從ふ人、皆默々として粉炭と流汗にまみれて働いてゐる、神秘的なそして壯嚴な場面だ、一行皆屁こたれる。

□

歸路につく、暗になれた爲めか足が早い、以前の人車の終点に來ると、涼しい風が汗ばんだ肌に心地よい、生れ變つた樣な氣がする、用意の人車に乘ると風を切つて上昇する入口の日光がまぶしく目に映ずる、にはかに一行は元氣づいて囀づり出す、氣づかずに居た空腹が一時に頭をもたげ出した。

□

元の坑口に立つたのは午後一時半、娑婆はいゝナと思つた因に一行の爲め特に御多忙中御好意をよせられた吉田、比佐、大越氏等に萬謝いたします。

日本火災保險株式會社代理店
中野甲藏

◎入院隨意自炊の便あり
外科 上田醫院
平町南町（電話一二九番）

東部電力株式會社平支所長
武田精一
平月見町（電話三三八番）

四倉銀行會社組合

和洋銅鐵金物問屋
（久）**釜屋商店**
磐城平（電話九・一三九）

隅田川炭礦
好間元山炭礦
津川炭礦
小田吉次

胃腸專門
內科
十二指腸虫病
梅毒專門
淋病
婦人病
皮膚病
平南町
松村病院
電話七〇一

安くて丈夫な靴は
仙臺屋靴店
平町搔揚小路

福島農工銀行平支店長
河西八十治

平町一丁目
和久井屋漆器店
電話四〇五番

理髮器具化粧品一式
芳香園油店
平警察署前